

医科研病院だより



第18号

発行：東京大学医科学研究所附属病院
平成25年1月15日
〒108-8639 東京都港区白金台4-6-1
代表電話03-3443-8111
ホームページ <http://www.transrec.jp/>

CONTENTS

| | |
|----------|---|
| 新年のご挨拶 | 1 |
| すこやか・カフェ | 2 |
| 栄養サブリ | 3 |
| なんでも・ひろば | 4 |

新年のご挨拶

病院長 今井 浩三

皆様、新年のご挨拶を申し上げます。
患者さんには、1日も早いご回復をお祈りいたします。
東日本大震災より1年10か月が過ぎましたが、まだまだ現地は大変です。
本年こそ、皆様が幸せでありますよう祈念いたしております。

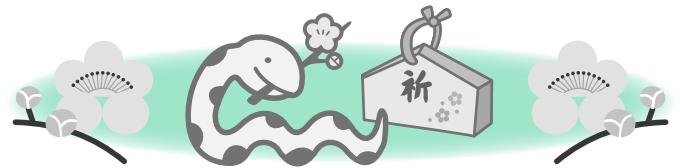
さて昨年は、医療サービスのさらなる向上になるよう、当病院の使命でもあります「世界最先端の医療を皆様に提供する」ことに加えて、「緩和医療科」を新たに創設いたしました。現在正式な緩和医療科は、全国の国立大学病院にはきわめて少ない現状を、東大から改革し、快適な療養生活を送っていただくためのものです。WHOも国も「診断時からの緩和医療」を、うたっています。また最近、早くからの緩和医療は、患者さんの生命予後を改善する、(ノ)

(ノ)という画期的な成果が出ております。

私は、病院長の傍ら、緩和医療科の診療科長も兼任させていただき、これまで、たくさんの患者さんを診療してきた経験を生かし、緩和医療の専門医師、専門看護師、専門薬剤師とともに、緩和医療の拠点を本病院につくる覚悟で取り組んでまいります。

世界で初めて可能となります「脳腫瘍に対する新しいウイルス治療」も、いよいよ開始されます。また「がんワクチン」をはじめ新しい治療がいくつもラインアップされています。今後も難しい病気に挑戦し、少しでも患者さんのためになるよう、職員一同、力をあわせて努力します。

患者さんからのご要望がありましたら、いつでもお寄せくださるようお願い致します。



トピックス

◆昨年10月24日に、病院棟8階トミーホールににおいて、中村恵美子さんのご好意により「小さなピアノコンサート」が開催されました。
リストやモーツァルトなどの素敵なピアノ演奏をご披露くださいました。



◆昨年11月14日に、病院棟8階トミーホールににおいて、渡辺すみ子医科研特任教授のご尽力とN響団員の皆様のご好意により「N響室内楽コンサート」が開催されました。
弦楽器四重奏による、ビバルディやベートーベンなどのクラシックの名曲から、ビートルズや「川の流れるよ」(ノ)



(ノ)うに」などのポップスのアレンジ曲まで、息の合った素晴らしい音楽を奏でてくださいました。

◆昨年12月4日に、恒例のクリスマスコンサートが病院棟8階のトミーホールににおいて開催されました。一昨年、昨年に引き続き今年も聖心女子学院・中高等科の有志のみなさんがおいで下さいました。

「Ave Maria」の合唱に始まり、ダンスや手話による歌、ハープやオーケストラ演奏など、この季節にふさわしいあたたかな演目を見事に披露してくださいました。



◆病院からのお知らせ◆

●臨床検体の取扱いにつきまして
当院での保存・追加採取検体を用いた臨床研究名をお知りになりたい方は
http://www.ims.u-tokyo.ac.jp/ore/IMSUT_ORE_7.html
をご覧ください。

すこやか・カフェ



緩和医療科のご紹介

准教授 鎮西 美栄子

平成24年8月に今井病院長を科長として緩和医療科が開設されました。これは文科省の「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン（平成24年度から5年間）」が採択され、東京大学大学院医学研究科に「緩和医療学」が設置されたことに伴う企画です。

当院では、長年文教大学の大本先生や城先生、精神科外来の福田先生がこころのケアを担当されてきました。鎮西は平成19年に福田先生から精神科リエゾン業務を引き継いで以来、こころのケアと痛み等のケアを担当してきました。

平成21年4月からは看護師（後に山花師長、藤原さん）、薬剤部より渡邊主任が参加し、緩和ケアチームとして活動開始し、平成20年度27名、21年度30名、22年度38名、23年度41名の新患症例を受けてきました。直接の患者御家族のケアのほかに、病棟回診・カンファ・がん疼痛管理指導料申請の代行、院内緩和ケア講習会開催・港区在宅緩和ケア支援推進協議会への参加など全員兼任なりに力を合わせて対応してきました。

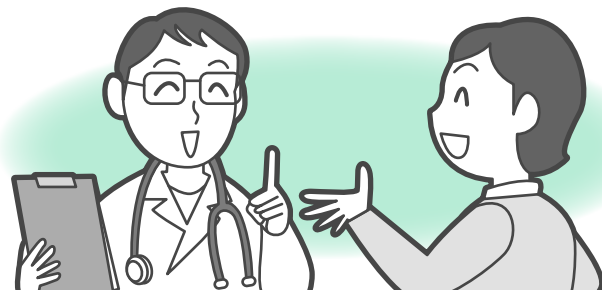
そして平成24年8月に専任で島田先生、10月には東大緩和ケア診療部の大立者である岩瀬先生をお迎えし、緩和医療科病棟開設の運びとなりました。非常勤講師は、池田和隆先生、細田満和子先生のお二人です。

次に岩瀬先生のご紹介をさせていただきます。

岩瀬哲先生は、平成6年に埼玉医科大学を卒業され、埼玉医科大学総合医療センターで2年間の外科研修を終(ノ)



緩和医療科メンバー



(ノ)え、緩和ケアの臨床を志して平成10年に東京大学医学部附属病院で「総合腫瘍病棟」を運営する放射線科の一員となりました。平成15年には東大病院が新設した緩和ケア診療部助手に就任されて、緩和ケアチームの運営と診療に従事されるようになりました。平成21年からは厚生労働科臨床班の分担研究者となられ、緩和ケア臨床試験を支援するデータセンターの構築と運営を担当、JCOG（Japan Clinical Oncology Group, NPO）のメンバーと共同してプロトコル審査委員会と効果安全性評価委員会を組織、現在もデータセンター長として約30の緩和ケア臨床試験を支援されています。

東大病院緩和ケアチームの運営面においては、チームが活動を開始した平成15年以降、年間の依頼件数は順調に増加し、平成23年度の年間依頼件数は470件に達しました。東大病院のがん患者の入院病床数は平均273床/日であり、癌研究所有明病院（700床）の350件、国立がん研究センター中央病院（600床）の350件と比較して大きく上回る実績を残されました。平成23年度の東大病院緩和ケアチームの「緩和ケア診療加算」の算定実日数（7587日、請求額30,348,000円）は、わが国の「がん診療拠点病院」において最大（全国第1位）です。

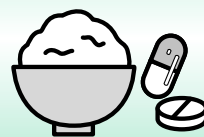
また平成19年より日本緩和医療学会の評議員を務められ、平成22年には同学会倫理委員会の委員を兼任、平成24年4月より厚生労働省「緩和ケア推進検討委員会」の構成員に選ばれ、わが国の緩和ケア診療において中心的役割を果たされています。

平成21年には東大病院の「ベストスタッフ賞」を受賞されました。一方、がん患者と家族を支援するNPO法人キャンサーネットジャパンの理事長も務めておられます。

本年7月東大大学院医学系研究科に緩和医療学講座が新設され、10月に今井病院長の要請に応じて医科研病院に異動されました。現在緩和医療科病床の立ち上げに尽力され、主に東大病院からの受け入れ患者さんが急増しています。またこれまで先生が培ってこられた関連病院とのネットワークを生かして、患者さんの望み形での在宅移行のシステム構築を目指して下さっています。

今後とも、緩和医療科へのご協力よろしくお願い申し上げます。

栄養サブリ



栄養管理室を覚えて下さい。

室長 畠山 高年

新しい年が始まりました。年中行事のように年末ジャンボがはずれ、残念だったことも色々あり、それでも叶った願いも多少はあったなあ…という、今年もいわゆる平凡な日々を過ごせたらと願っています。何でもない日常の中にあつて、家族や友人と話したり、映画を見て泣いたり笑ったり、それから美味しい物を頬張って思わずニヤケたり、そんな事が毎日楽しくしてくれる「幸せのエッセンス」なのですが、入院しても少しはそれを感じたいものです。

幸せのエッセンス(楽しい食事)を届けたい。(それが私たち管理栄養士のねがいです。)

私たち栄養管理室は、「幸せのエッセンス」とはいきませんが、少しでも楽しい食事を皆さんにお届けしたいと願い、試行錯誤を重ねてきました。 例えば……

- ・安全で家庭的な食事の提供(素朴な家庭料理が一番食べやすいもの。食器は温かみのある陶器)
- ・より温かい食事の提供(冷菜は、より美味しく冷やして)。
- ・季節の食材を使い、年に20回以上の行事食を計画。(最近では、クリスマス、年越しそば、おせち)
- ・2種類の料理から選ぶことができる食事。(毎日、常食・加熱常食等の昼食と夕食に実施)
- ・美味しいラーメンを召し上がって頂きたいと思い、定期的に5階ラウンジにて、できたてのラーメンを提供。(醤油スープ、味噌スープ等の2種類から選べる。)
- ・加熱食(低菌食)の方には、定期的に菓子パンを選ぶことができる。(結構人気!) …等々です。

皆さんの満足ポイントが少しでも上がるような取り組みを探しています。

体調によっては、食欲も……。

少し話が変わりますが、病状によって食が進まない事は時々経験するところです。本当につらい時期は、食べられなくとも不思議ではありません。ただ、そんな時でもこれなら食べられるんだけどなあ…と思うこともあるでしょう。皆さんのご希望どおりとはいきませんが、少しならお手伝いできることもあると思います。 例えば……

- ・熱が出て食欲が落ちた。 ・口内炎ができて食べにくい。
- ・歯や入れ歯の不具合で食べにくい。
- ・〇〇の臭いが気になる。 ・〇〇が喉を通らない。
- ・〇〇を食べると調子が悪くなる。

良い栄養状態を保つと、より治療効果があがると言われます。食事の栄養や形状を、個人に合わせて食べやすく調整できればと、私たちは考えています。(ノ)

(ノ) 食事の相談がしたい。—そんな時は、私たちに声を掛けて下さい。—

私たち管理栄養士の生息場所が地下のため、顔をお披露目する機会が少ないので、室員の人相書きと出役場所をお知らせ致します。



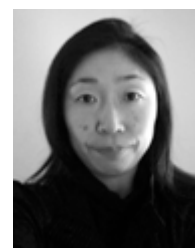
名 前 畠山 高年
出役場所 5階・6階



名 前 本田 友絵
出役場所 4階・6階



名 前 榎本 みのり
出役場所 7階・5階



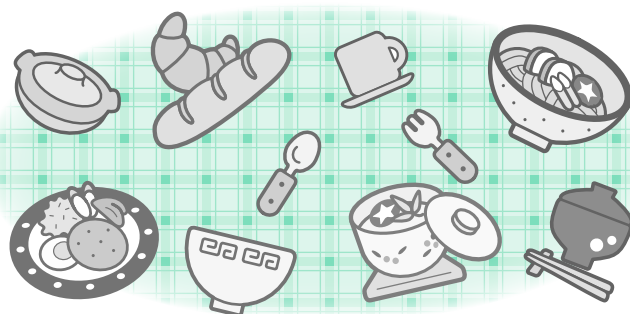
名 前 三浦 洋子
(育休中)

私たちの体は、食べることによって支えられています!!

私たちの体は食べたもので作られます。特に食事の影響を受けやすい生活習慣病は、食生活を少し工夫することで、良いコントロールを得ることができます。私たちに、お気軽にご相談下さい。

外来、入院を問わず、こんなご相談を受けています。肥満、メタボリックシンドローム、糖尿病、脂質異常症(高脂血症)、痛風、腎臓疾患、肝・胆疾患、膵臓疾患、心臓疾患、高血圧症、胃腸疾患、消化管術後、嚥下食、鉄欠乏性貧血、骨粗鬆症、低栄養、先天性代謝異常症、アレルギー、加熱食(低菌食)、摂食異常(拒食・過食)など食生活に関わること全般。

今年も、皆さんの『美味しく食べたい』思いに、少しでも応えられますように。
by 栄養管理室



なんでも・ひろば



医科研周辺～古地図より

下の地図をご覧ください。昭和22年に練馬区が23番目の区として新設されたことを記念して出版された地図（日本観光出版株式会社）の医科研の周辺を示したものです。医科研は「伝染病研究所」で、所在は「白金台」ではなく、



「白金三光町」だったのです。「白金台町」は目黒通りの周辺の細長い地域だったようです。医科研の北西を見ていただくと、「香蘭女」があります。これは、現在は品川区旗の台にある「香蘭女学校」のことです。ただ、香蘭女学校のホームページを見ますと、昭和16年には現在地に(♫)

(♫)移っているそうです。そうしますと、昭和22年の出版ですが、昭和16年より前の状況を表しているようですが戦後の混乱期だったので仕方がないということにしておきましょう。

医科研の周りで有名なものが無いと思いませんか？そうです、「外苑西通り（通称プラチナ通り）」がありません。実は外苑西通りは環状4号線として計画され、東京オリンピック頃に建設されました。現在は目黒通りの東急ストアで止まっていますが、頌栄女子学院の脇を通り、衆議院高輪議員宿舎跡地を抜けて国道1号線に延長する予定となっています。先日、東京都が道路建設のために同跡地を買収したという報道もなされていました。「白金」からの連想で「プラチナ」と通りの通称が付き、テレビ番組の影響で「シロガネーゼ」という言葉も誕生しています。ところがこれもおかしな話なのです。医科研前の地下鉄駅の読み方は「しろかねだい」です。「しろかね（白金）」は「銀」を指します。諸説有りますが、自然教育園に館を構え、「銀」をため込んでいた白金長者がその名の由来のようです。つまり「プラチナ通り」ではなく「シルバー通り」でなければならなかったのです。

「白金三光町」や「白金今里町」の標識は、古い電柱や住所掲示に見つけることができます。目を配りながら医科研周囲を散策していただくと思わぬ発見がありそうです。

（プラタモリがお気に入りの広報委員）

東京大学医科学研究所附属病院・ご利用案内

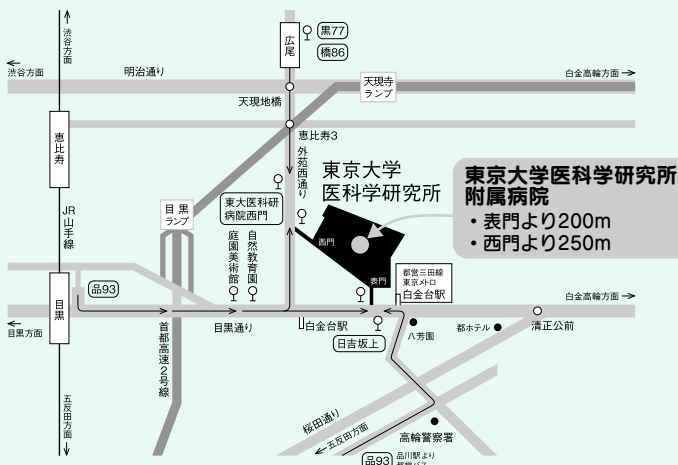
診療科

内科（総合、血液腫瘍、感染症、アレルギー・免疫、代謝・内分泌、循環器、消化器）

小児科（小児細胞移植）

外科（一般、腫瘍、消化器、乳腺）、整形外科（関節）

脳腫瘍外科、放射線科、麻酔科、遺伝相談



外来診療日

月曜日～金曜日（祝日および年末年始を除く）

診療受付時間

8：30～11：30（初診・再診）

12：30～16：00（再診のみ）

※予約時間の15分前までに受付にお越しください。

（確実にご受診いただくために、ぜひ予約をお取りください）

予約専用電話（予約受付および変更）

診察：03-5449-5560

検査：03-5449-5355

受付時間 8：30～17：00（外来診療日のみ）

アクセス

- 東京メトロ南北線・都営地下鉄三田線で「白金台駅」下車
 - JR 山手線目黒駅東口から都バス品93大井町競馬場行で「白金台駅」下車、あるいは都バス黒77千駄ヶ谷行か橋86新橋駅行で「東大医科研西門」下車、または駅より歩いて約15分、タクシーで約5分（1メーター）
 - JR 品川駅から都バス品93目黒駅行で「白金台駅」下車
 - 東京メトロ日比谷線広尾駅から都バス広尾橋から黒77または橋86目黒駅行で「東大医科研病院西門」下車
- ※患者専用駐車スペースも数台分ございます。ご利用は受付にお申し出ください。